

氏名	石 田 俊 夫		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 3 3 6 号		
学位授与の目付	昭和43年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	先天性心疾患の脳波学的研究		
論文審査委員	教授 浜 本 英 次	教授 奥 村 二 吉	教授 西 本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性心疾患の病態生理を中枢神経機能の面から解明する目的で、臨床神経学的に異常の認められない 157例の症例について詳細な脳波学的研究を行った。その結果脳波異常は63.7%にみられ、境界域27.4%、正常 8.9%であり、基礎波の徐波化が本症に於ける脳波異常の特徴である事を明かにし、更にこれを自動周波数分析により定量的に表示した。チアノーゼを伴うものに異常所見が多く、又末梢動肥血酸素飽和度と相関が認められた。

次に手術中の脳波の変化については、人工心肺及超低体温法の両者を比較検討し、その各々の特徴を明かにした。即ち前者では不規則性大徐波、後者では flat pattern を呈する事を示した。

又95例について術後脳波を経時的に記録し特に1年後の脳波に改善が著るしい事、即ち自動周波数分析の面で改善をみたものは77.4%であった。特に A. S. D. に於て著明な事を述べた。

年令的には6才以下のものに術後1月目に一時的に脳波の悪化するものが5/9例に認められ、手術侵襲の幼弱脳に対する影響の大なる事、従って手術方法、麻酔法に今後検討すべき点が多い事をのべた。

(日本小児科学会雑誌第73巻第3号(昭和44年3月)掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は先天性心臓弁膜症児の脳波が相当年令の児のこれに比し、未発達状態にある事を検している。其上にかゝる患児に心臓手術を施したる場合、その術前、術中、術後に亘り脳波の変動を検し、術中の脳への血行不全が残す後遺症状を精出し、手術上の注意を示唆した価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。